

令和4年度 京都府立綾部高等学校（本校全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>・学力の向上と希望進路の実現</p> <p>・基本的生活習慣の確立</p> <p>・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成</p> <p>・健康及び体力の維持・向上</p> <p>・地域社会から信頼される学校づくりの推進</p>	<p>(成果)</p> <p>◇令和4年度から導入されるBYODに向けICTを活用した授業や研修に取り組んだ。また、ペーパーレス化をはじめとする業務の効率化についても推進することができた。</p> <p>◇探究活動や課題学習では、大学、事業所、市役所などと連携したり、SDGsを取り入れたりすることで、生徒が経験を積み、新たな気づきにつなげることができた。そのことで生徒の思考力・判断力・表現力そして自己肯定感を育成することができ、進路実現にもつなげることができた。</p> <p>◇進路指導では、四年制国公立大学合格者が5名となった。また、学校幹旋による就職内定率も100%となった。さらに公務員では京都府職に1名、綾部市職に1名など計5名が合格した。</p> <p>◇部活動では、体育系では全国高等学校総合体育大会カヌー競技に男女が出場し、男子が第3位入賞という快挙を成し遂げた。男子ソフトボール部が全国選抜大会出場し、3回戦進出を果たした。文化系では吟詠剣詩舞部門で全国高等学校総合文化祭への出場を果たした。また、ESSが台湾高校生や韓国高校生とオンライン交流を行った。</p> <p>◇3Qについては年度当初に教職員それぞれが目標を立て、年間を通してその目標を意識しながら取り組むことができた。また4S+Sについても推進することができ、衛生委員会による職場安全点検では昨年度よりも高評価を得ることができた。</p> <p>(課題)</p> <p>◆教育活動に関するアンケートの学力向上に関する項目では、ICTの活用も進んだこともあり、2年連続でややプラスの結果となった。しかし目標とする結果にはならなかった。学力向上のため、ICTのさらなる活用を推進し、学習効果をあげたい。</p> <p>◆特に探究活動体については推進できたが、今年度よりも体系化と地域と連携した内容を充実させること重要である。生徒の思考力・判断力・表現力の育成につなげるため、本校の特徴として重点的に取り組みたい。</p> <p>◆コロナ禍で制限が多い中、総務企画部や保健体育科を中心とした学校公開等の広報活動、開放型地域スポーツクラブ、広報・地域貢献を行うことができた。しかしながら制限の中での取組で、本校志望者の増加につなげることができなかった。特に広報戦略については見直し、本校志望者の増加につなげたい。</p> <p>◆4S+S運動をベースとして、あいさつの励行、携帯電話・スマホの利用マナー、登下校の通学マナー、自転車の乗車マナーの向上など生徒の規範意識を向上を図り、シティズンシップ教育を継続し、充実させていかなければならない。</p> <p>◆働き方改革を進めているが、業務のスリム化の余地は残されている。また学習環境・職場環境の改善も含め、今後も継続して対応していきたい。</p> <p>◆コロナ禍で様々な制限がある中でも工夫しながらできる限り学校行事等の教育活動に取り組んだが、それでも生徒のストレスは見られる。今後も同様の状況が予想されるため、そのことに配慮しながら教育活動に取り組みたい。</p>	<p>■A・G・P(Ayabe Global Program)の推進</p> <p><スマートスクール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業 ・BYODを活用した授業 ・ロイノートを活用 ・スタディサプリの活用 ・ONLINEの活用 ・ペーパーレス化<Slack> <p><探究活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力の育成 ・海外高校生との交流 ・フロンティア学の推進 ・探究の時間の推進 ・わいがやルームの活用 ・SDGsを授業や部活動へ <p><地域発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスレツ綾部の推進 ・アンネのバラ園を拡充 ・西町アンテナショップでの販売 ・綾高ブランドの開発 ・地域での部活動発表 ・地域でのボランティア活動 <p><連携事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都先端科学大学 ・福知山公立大学 ・京都工芸繊維大学 ・同志社大学 ・京都府立農業大学校 ・地域企業とのコラボ ・農業体験授業 <p>■3Q・4Sの推進</p> <p>3Q</p> <ul style="list-style-type: none"> <Quality Teacher> 教師としての資質向上 <Quality School> 教育内容の充実 <Quality Students> 未来を切り拓く人材の育成 <p>4S</p> <p><整理><整頓><清潔><作法></p> <p>整理整頓を心がけ、清潔な職場・学習環境を整える</p> <p>TPOに応じた言動を心がける</p> <p>明るく元気に、笑顔がある学校</p>

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題	
1 組織・運営	AGPをベースとした魅力ある学校づくり	一人1台タブレット環境など整備したICT環境を生かした授業、探究活動を展開し、地域や校外の機関との連携事業をさらに充実させる。	B	B	一人1台タブレットの配置は1学期末となり、2学期からの運用となったが、活用していくことができた。アンケートでは昨年度よりわずかに上がった部分もあったが目標は達成できなかった。
		教育活動に関するアンケートの「学力が向上していると思う（そう思う・どちらかと言えばそう思う）」の合計が生徒・保護者ともに75%以上を目指す。	B		
	組織的な学校運営と業務のスリム化	コロナ禍に正しく対処するためチーム学校で対応を進め、分掌、教科、各種会議の連携を図り、組織的な学校運営を推し進める。	A	A	コロナ禍の状況が変化していく中、以前の活動を取り戻していけるように努めることができた。校内の整理、ペーパーレス化はより進んで、時間外勤務時間も少し減少させることができた。継続して取り組んでいきたい。
		整理・整頓・清潔・作法の徹底、ペーパーレス化、会議の効率化を進め、環境・業務改善を推進する。また、月平均時間外勤務時間40時間以下を目指す。	B		

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題	
2 総務企画部	広報活動の充実	ICT環境・国際教育・府立高校特色化事業の取組を充実し、受験生の進路選択へつなげる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ICT教育PRの他、AETの説明会参加や、ESS部発表等、国際教育活動を広報できた。 ◆綾高だよりの発行回数を増やした。また、広報委員の取材活動を取り入れたり、毎号特集を企画したり、内容を充実させた。 ◆今後は新たなフロンティア学の魅力について積極的に広報し、他校との差別化を図る。 ◆生徒・保護者が学校の情報にアクセスしやすい環境（SNS導入）について検討する。
		本校進学の良い点を明確に伝える広報企画を立てる（4月・6月・9月）。	A		
		オープンキャンパス以外の受験生とのコミュニケーションとして、WEB・広報誌・動画による情報配信を毎月行う。	B		
	人権教育の推進	各学年での人権学習を中心に、人権教育の観点を持って全ての教育活動が行われるように啓発する。	B	B	
		ICT化に伴う新しい教材を積極的に活用し、人権意識を啓発する取組を行うことで生徒や教員の人権意識の向上を図る。	B		
	PTA活動の支援	PTA活動により多くの会員が参加できるよう、本部役員会との連携をさらに深める。	A	A	
PTA広報誌の作成がより円滑に進むよう、協力体制を強化する。		B			

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題	
3 教務部	新教育課程への対応	観点別評価の適切な運用に向けて教科間での議論を深める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆各教科内での評価のあり方について議論を深めた。教科間での情報共有を進めたい。 ◆学年と連携し、科目選択についての説明を丁寧に行った。 ◆授業でロイロノート活用率が8割を超えた。 ◆ICT研修や中高連携を通じて、ICT活用能力を高めた。 ◆家庭学習時間調査を通して、生徒の学習状況を把握し改善に努めた。 ◆学年部と情報を共有し、総学の学習内容の充実に努めた。 ◆調べ学習に終わらない、よりよい探究活動にしていきたいことが課題である。
		生徒が希望進路に合わせた科目選択できるように各教科担任と連携をする。	A		
	基礎学力の向上 主体的な学び	全教職員がロイロノートを活用した授業を行い、授業実践例の共有を深める。	A	A	
		家庭学習の充実を図るために、家庭学習時間調査を年3回行う。	A		
	探究活動の充実	フロンティア学担当が学年部や授業担当者と連携をしながら、探究活動を充実させる。	A	B	
		探究活動を通じて、主体的に学ぶ力をつける。	B		

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
4 生徒指導部	安心して学べる学校作りを目指す	いじめや暴力をなくす指導を行い、命の大切さを伝える。	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆暴力特別指導が1件あった。コミュニケーション能力を向上のため、人間関係作りを促していきたい。 ◆授業中でのスマホ使用についてはのべ54件(44名)の指導を行った。スマホを無意識に触ってしまう依存症的な傾向もうかがえる。家庭と連携し生活習慣から改善を促す必要がある。 ◆貴重品や自転車の盗難が複数発生した。貴重品の自己管理の徹底と巡視など発生しないよう指導していくことが必要である。
		授業を大切に、学力の向上をめざすためにも、携帯電話・iPad利用のマナーやモラルの向上を目指す。(授業中の不正使用年間30件以内)	C	
		盗難未然に防止のため、校内巡視をすると共に、各自の貴重品等の管理意識を向上させる。(発件数年間0件)	C	
	シティズンシップ教育を推進する	生徒会を中心に学校行事等を主体的に企画・運営させる。	B	
		登下校時の通学マナーや自転車マナーの向上を目指す。	B	
		コロナ対策を万全にし、ボランティア活動に積極的に参加し、地域社会とのかかわりを深める。	B	
	基本的生活習慣を確立する	常に身だしなみを整えるように、教職員全体で日常的な指導を徹底する。(身だしなみスランブラリーの実施)	C	
		入室許可証システムと遅刻スタンプラリーを実施し、学校と家庭が連携して指導する。(朝の遅刻5回以上学期3名以内)	C	
		挨拶の励行や入室マナー、正しい言葉遣いを身に付けるように指導する。	B	
			C	

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
5 進路指導部	希望進路の実現	各生徒の希望進路の実現を果たし、卒業後の進路未決定を0とする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も全教員の協力のもと、進学・就職ともに充実した進路指導ができた。また、就職公務員希望者への特別講座を行い、しっかりと対応できた。3年担任に比べ、1・2年担任や教科との連携が不十分であった。また、行事等の連絡が直前になることがあった。今後、余裕を持って連絡し、準備できるようにしていきたい。 国公立大学の過去問や赤本、その他指導に必要な書籍を購入することができた。また、3度の進学特別講座に加え、今年度は私立大学対策を行い、より多様な進路に対応した指導を行うことができた。到達度テストについては、課題が多くフィードバックも不十分で、今後検討が必要である。 就職担当者や特別講座により適切な就職支援ができた。京都工芸繊維大学のみならず、他大学そして様々な学問分野において高大接続を利用した取り組みが必要である。また、1年生に進路ガイダンスを導入し、2年生では志望理由書に取り組みさせる中で、キャリア意識の醸成を図ったが、形骸化することなく内容を深められるようにしていくことが必要である。
		多様な進路選択のある中で、教員の指導態勢を整え、生徒一人ひとりの進路に適した指導を行う。	A	
		学年部、教科と連携した組織的進路指導を展開し、担任との情報交換を密に行い、生徒の進路決定に必要な情報を積極的に共有する。	B	
	確かな学力の育成	模試分析の資料や入試過去問題の積極的活用を図り、充実した教科指導のための環境整備を図る。	B	
		長期休業中に実施する特別進学講座の有効的活用を図り、また、模試データの分析とその活用を充実させ、個々の生徒の学習課題の解決を図る。	B	
		到達度テストを実施し、生徒の基礎学力を測り、生徒自身が自らの課題を自覚的に学習するとともに、教員も生徒の課題を共有し課題解決に向けて取り組む。	C	
	自らキャリアを切り拓く力の醸成	高大接続事業を導入し、志望分野の学問観を養うとともに、主体的に自らの興味関心を探求する意識を醸成する。	B	
		自ら進路決定できるよう、ガイダンスや体験活動に積極的に参加させる。	B	
		望ましい職業観、勤労観を育成するとともに、各生徒の特性に応じた就職支援を行う。	A	
			A	

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
6 保健部	健康及び体力の維持・向上	毎朝の健康観察・入力、換気・手洗い・黙食等の呼びかけを行い、感染症予防の指導を徹底する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆感染症に対する対策・捉え方が日々変化する中で、生徒自身の危機意識の定着を図ることができた。 ◆保健だよりや配信・掲示・配付等、その内容に応じ生徒や保護者への連絡方法を変えることで、よりその内容を伝えていくことができた。 ◆心臓に関わる受診指導は概ね良いが、一般的な受診は感染症の影響もあり、受診を強く勧めにくい状況があった。 ◆ゴミの分別や持ち帰りや教室の整理整頓等、学習環境を整えることが当たり前になりつつある。ただ、委員会や生徒主体の呼びかけには至らなかったことが今後の課題である。 ◆感染症対策の呼びかけを生徒に企画運営させる前に、対策方法が変化した現状があった。 ◆委員会活動としては保健学習や検診の呼びかけ等を生徒同士 ◆特別な支援を必要とする生徒への具体的な支援方法を学年・分掌・教科担当者・学習支援員で共有することができた。 ◆卒業後の具体的な支援としては、生徒の自己理解や保護者の特性受容の課題もあり、進学先へつながりにくい面がある。学年が進む前に生徒の内面に切り込んだ指導を行うことも必要だと思われる。
		保健だよりや掲示物を効果的に活用し、生徒の感染症や自身の健康に対する意識の向上を図る。	A	
		健康診断の結果、受診が必要な生徒について医療機関の受診をするよう指導を徹底する。	B	
	3Q・4S運動の推進	委員会活動としてのSKD活動の充実はもちろん、委員会から感染症対策への呼びかけを行い、生徒の感染症に対する意識を啓発する。	C	
		委員会主体の啓発活動を通じて、身の回りの整理整頓やゴミの分別・持ち帰りを徹底し、学習環境を整える。	C	
	個性や能力を伸ばす支援体制の構築	不適応生徒や特別な支援を必要とする生徒を早期に把握し、学年部・教科・分掌・家庭との連携を図り、迅速な対応を行う。	B	
		保健室を窓口として学習支援員や専門機関との連携を図り、特性や課題のある生徒への将来を見据えた具体的な支援につなげる。	B	
			B	

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題	
7 第1学年部	学習習慣の確立と基礎学力の定着	ベル着等の授業規律の確立を基盤とし、主体的に学習に取り組む態度を育てる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や課題の提出を必ず行うことや休み時間と授業のメリハリを付けるように指導したが、2学期以降徐々に崩れたところもあった。 ・2学期終盤より、学年主導でスタディサブリの毎週課題を配信して基礎学力の定着を図った。 ・夏休みの面談や電話連絡、家庭訪問等を通して、保護者との連絡を密にし、情報の共有に努めた。 ・掃除を必ず行うように指導すると共に、教室やロッカーの整理整頓をするように指導した。
		学習習慣を確立し、授業内容の定着を図る。	B		
		教科担任と連携を密にし、個に応じた指導を行う。	B		
	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成	規範意識を育成し、時間・期限を守る指導を徹底する。	B		
		4S運動に基づき、挨拶や身だしなみなどのマナー指導を徹底し、教室の環境美化を図る。	A		
		保護者との連絡を密に行い生徒の情報共有を行うとともに関係分掌との連携を図る。	A		
豊かな人間性及び協働する態度の育成	綾高祭や学年行事等に主体的・積極的に取り組みさせ、協働する態度を育成する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭等で、協力して一つのことに取り組むことの重要性を指導したが、一部中々出来ない生徒もいた。 ・当初、部活動に参加していたがやめてしまう生徒が徐々に出てきた。 	
	学校生活の様々な集団活動を通して、互いに認め合い、他者を思いやる心を醸成する。	B			
	部活動、ボランティア活動等への参加を勧め、多くの人と関わりの中で、人間的な成長を促す。	B			

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題			
8 第2学年部	希望進路実現に対する意識を高め、学習習慣の定着と学力の伸長を図る	学力の伸長を目指し、1日2時間以上の家庭学習の時間を確保させ、学習習慣を定着させる。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 調査ごとに「生活・学習チェックアンケート」を実施し生徒の実態把握に努めた。調査期間中はしっかり取り組めるようになったが、日常の学習習慣の定着には至らなかった。 ◆ 各担任が必要に応じてこまめに面談を行うことで、生徒に寄り添う、個に応じた指導ができた。 ◆ 進路指導部作成の「進路の手引き」を活用するとともに、「志望理由書サポート講座」等の取組を通して、希望進路別の進路学習を行うことができた。学年部主催の看護系進路希望者学習会を行う等、進路に対する意識を高めた。 		
		教科担任と連携を密にするとともに、面談を適切に実施し、個に応じた指導を行う。	A				
		進路指導部と連携し、進路選択に関わる情報提供を効果的に行うなど、希望進路実現に対する意識を喚起し、その達成のための基盤をつくる。	B				
	基本的生活習慣を定着させ、規範意識の育成を図る	社会に生きる一員として、挨拶・身だしなみ・環境美化及び規則の遵守を大切にすることを育成する。	B			B	
		授業を大切にすることを意識を高め、ベル着を徹底し、より良い学習環境を整える。	B				
		保護者との連絡を密にし、生徒の情報共有を行うとともに、関係分掌との連携を図る。	A				
	豊かな人間性を育むとともに協働する態度を涵養する	綾高生としての自覚を高め、社会生活の基本には人権の尊重があることを日々意識させ、学校生活の様々な活動に取り組ませる。	B			B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒指導部と連携して身だしなみ等への意識の向上を図るよう努めたが、全生徒に徹底はできなかった。 ◆ ベル着はできていても、授業準備の不十分なクラスがあった。 ◆ 必要に応じて保護者と連携し、生徒の情報共有を行うことで信頼関係の構築に努めた。各分掌との連携も密にし、講演会等、各種行事を円滑に行うことができた。
		綾高祭、修学旅行等の行事に主体的・積極的に取り組みさせ、先輩・後輩・仲間との信頼関係を深めさせる。	A				
		部活動・ボランティア活動・学校行事等への積極的な参加を勧め、多くの人と関わり、多様な考え方に触れることを通して、人間的な成長を促す。	B				

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題		
9 第3学年部	自らの進路を意識させ、「第一志望」の進路を実現させる。	検討会の実施や受験指導体制の確立など、進路指導部と密に連携する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 担任面談を適切に実施し、進路希望の把握や達成に向けての支援を行うことができた。また、進路指導部と連携を図り、情報を共有しながら指導ができた。多くの生徒が第一志望にこだわり、合格に向けて最期まで粘り強く取り組むことができた。 ◆ 身だしなみや学習環境を整えられるよう、特に終・始業式や定期考査、体育祭、卒業式等、節目節目では保護者や関係分掌と協力して、規則を遵守する態度の涵養に努めた。しかし、定期考査ことの違反生徒数を10名以下にすることはできなかった。また、全員が普段から規則を遵守する姿勢を持ち続けることができたとは言えなかった。 ◆ 本年度の学校祭は従来に近い形で実施することができた。見本となる経験が少ない中、試行錯誤しながらも、最上級生として下級生の手本となる活動ができ、行事を成功に導くことができた。 	
		模試分析ツールを効果的に活用し、確固としたエビデンス(根拠)に基づいた進路指導に努め、生徒の最善の進路選択に寄与するように努める。	A			
		担任、教科担当者、進路指導部とで情報を共有し、望ましい職業観、勤労観を育成するとともに、各生徒の特性に応じた就職支援を行う。	A			
	望ましい生活を過ごさせ、下級生の「範」となる3年生として自立させる。	学年集会や委員会活動を活用し、学年全体で規律ある行動やマナーを守ろうとする雰囲気醸成し、定期考査ごとの頭髮・服装違反生徒数を10名以下にする。	C			B
		「まなび庵」や「わいがやルーム」「がんばんろーが」などの積極的な利用を促し、進路実現に向けた「共闘」意識を持たせる。	B			
		部活動や学校行事などに全力で取り組み、リーダーシップを養う。	A			
生徒及び保護者との連携を密にし、信頼感の醸成に努める。	学年(学級)通信などを発行し、情報発信に努める。また、生徒が生き生きと活動している姿や努力する姿(遠足、進路ガイダンス、LHR、学校祭など)を学年部起案で本校ホームページに掲載する。	A	A			
	夏期休業中に、全生徒対象の三者面談を実施する。また、二者面談を適切に実施して、適切な進路情報の提供に努める。随時、必要に応じて生徒の様子を保護者に連絡し、家庭での協力を依頼する。	A				

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
10 事務部	適正な事務処理の遂行と教育の諸条件整備	短期経営目標に基づいた予算の計画的・効率的な執行を行う。	A	A ◆限られた予算の中で、工夫して計画的な予算執行に努めた。 ◆学校施設維持修繕を計画的に進めるとともに、故障箇所の修繕等の対応に努めた。 ◆窓口及び電話対応について、おおむね迅速・丁寧な対応を行うことができた。 ◆校内の整理・整頓に努めるなど、4S運動に取り組んだ。
		各分掌部長や教科主任と連携し、ICT・探究活動を取り入れた教育活動を推進する。	B	
	窓口業務及び電話対応における信頼される学校	保護者や来客者等に親切・迅速・丁寧な窓口対応を行う。	A	
		電話対応において、迅速な取り次ぎ、丁寧かつ的確な説明を行う。	B	
	来客者に来客者名簿を記入いただくことで来客者の行動を把握し、不審者対応を図る。	A		
	安心・安全・清潔な環境整備	4S(整理・整頓・清潔・作法)運動を基に、安全で清潔な教育環境の整備に努める。	A	A

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
1 国語科	学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	計画的・継続的な小テストや課題への取組を通じて、家庭学習に主体的に取り組めるよう指導する。	A	B 授業はもとより、小テスト等においても学年ごとに連携し、継続的に取り組むことができた。漢字検定については、ポートフォリオ作成の観点から、学年部とも連携し受験促進に努めたが、今年度の受験者はのべ215人と前年度より減少した。(前年度302人) 今後は受験率と合格率上昇を図るため、より有効な支援を考えていきたい。 希望進路の実現のため、また、キャリア教育の一環としても「小論文・志望理由書」対策が必要であると痛感している。今後も、学年部・進路指導部と連携し、各学年の課題に沿った取組を、計画的・継続的に進めていきたいと考えている。 昨年度に続き、ICTを授業内で利用することができた。しかし、ICTの活用やグループワークをはじめとしたアクティブラーニングの実践については、依然として課題がある。国語科全体の取組として今後も研鑽に努め、日々の授業を円滑に進めたり、生徒の主体的活動を積極的に推進したりするために有効活用できるようにしていきたい。
		基本的な語彙力の向上を目指し、日本漢字能力検定の受験を推奨し、合格率50%となるよう支援する。	C	
		学習規律を確立するとともに、切磋琢磨する学習環境づくりに取り組む。	B	
	個に応じた指導を進め、希望進路の実現を支援する。	模擬試験等の分析により、各コース、個人の実態の把握に努め、その特性に合わせた指導を行う。	B	
		各クラス担任、進路指導部と連携し、小論文・志望理由書の作成等、表現に関わる取組の支援を行う。	B	
		「読書の時間」等、読書の取組を通じて、読解力、思考力の育成を目指す。	B	
国語科全体の教科指導力の向上に努める。	お互いの授業を参観して研鑽を積むとともに、指導方法等について積極的に意見交換し、指導力の伸長を目指す。	A		
	実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する方策の研究に努める。	B		
	効果的なICTの活用やアクティブラーニングの実践等について研究し、授業に生かす。	B		

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
2 地歴・公民科	生徒の希望進路の実現	生徒が主体的に取り組める効果的な課題を提供し、質の高い学力を育む。	C	B 特に3年生に対しての個別の受験指導を行い、希望進路の実現に向けての支援ができた。科目に対する興味関心を高め、自走できる生徒の育成のための取組を計画することが十分にはできなかった。 特に進学を目指すクラスについては、模擬試験の結果に応じて過去問演習の機会を設けるなど授業改善に努めた。 1年生では新科目やICTの活用が始まり、担当教員での小教科会議を繰り返した。その結果資料読解や問いを中心にして進める授業など、講義のみの授業ではない新しい形を生み出すことができた。またALTと連携した授業など、これまでになく取組も実施できた。
		個に応じた指導を充実し、各種模擬試験や入試でしっかり結果を出せるよう努める。	B	
		年1回は知的好奇心をくすぐる活動を行う。	C	
	教師の教科指導力の充実	各種模擬試験の結果を分析し、生徒たちの学習課題を把握し、授業改善に努める。	B	
		成績不振者を減らす。地歴公民科全体で各学期5人未満を目指す。	B	
	授業方法の改善	新テスト、新学習指導要領における新科目についての研修を深め、対応力をつける。	A	
生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成する授業の工夫、効果的なICTの活用について研修を深める。		A		
年1回は全員公開授業を実施し、授業力の向上に努める。		B		

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題		
3 数学科	学力の向上	基礎基本をしっかりと理解させ定着させる。そのために、課題や小テストを活用して家庭学習の習慣をつけさせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は毎週の課題を通して「数学をしなければいけない」という意識付けができた。また、ロイロノートを活用して添削等を行った。 2年生は、数学を諦めさせないようにし、ベネッセ1月模試を例年より多い約120名が受験した。また、大学入試に必要な学力の向上を図った。 3年生は、理解が深まるよう解説や演習を行い、共通テスト数学ⅡBで全国の平均点を上回った。また、学年末まで前向きに学習に取り組ませることができた。 ・自主的に計画を立てて学習に向かう姿勢を身につけさせる必要がある。また、ロイロノートの効果的な活用法をこれからも考えていきたい。 ・教科全体でカバーをしなければいけないときもあるので、教員の持ち時間について検討していきたい。 	
		模擬試験を活用して、大学入試における標準的な問題を解くことができるだけの学力の向上を図る	A			
		数学を苦手とする生徒の支援を行う。	A			
	教科指導力の向上	生徒が授業に能動的に参加できるように、授業展開やプリントを工夫したり、ICTを活用したりする。	B			B
		生徒の理解が少しでも深まるような問題解説や問題演習を行う。	B			B
		ロイロノートや個別最適化のためのツールを使ってみて、効果的な活用法を考える。	A			A

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題				
4 理科	個々の生徒・コースに応じた指導の工夫	「主体的・対話的で深い学び」の観点から、各々の科目において、生徒の思考・判断を促す発問をし、年度末の授業評価アンケートにおいて、7割以上の肯定的な意見の獲得を目標とする。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを活用して、生徒の思考・判断を促す活動を行うことができた。 ・実験・観察を十分な回数行うことができなかった。 ・タブレットの使い方等における、授業規律を十分に徹底することができなかった。 ・科目にばらつきはあったが、SDGSの観点を意識した授業実践が十分に行えなかった。 			
		実験・観察や野外活動を積極的に実施し、各講座ごとに少なくとも学期に1回は実験・観察等の探究的に活動させる授業を行う。各科目の授業においてSDGsの観点を取り入れた指導を行う。	C			B		
		授業規律を確立し、スタディサプリやロイロノートの課題配信を有効に利用することにより、個々の生徒に応じた指導を行う。	B			B		
	基礎学力の定着と希望進路の実現	各学年・担任との連携を密にすることで各々の生徒・コースの学習状況を把握し、指導に活かし、教科の評定平均値3.5以上を目指す。	B			B		
		電子黒板・ICT機器を用いた授業を実施する。ロイロノート等を用いて個々の生徒が自身の意見を表現する機会を各授業において1回程度設ける。小テストや学習課題等を学期に1回以上実施する。	A			B		
		3年生秋の模擬試験において、受験者の理科偏差値50以上を目指し、普段の授業や休業中の進学講習において過去の模擬試験問題の解答解説等を効果的に行う。	B			B		
	指導力の向上に努める	ロイロノートを中心としたICT機器の活用における実践報告や活用事例報告を日常的に行い、効果的な授業実践に努める。	A			A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と密に連携を取り、生徒の学習状況に応じた指導を行うことができた。 ・ICT機器を活用して効果的に授業に使うことができた。 ・長期休暇における講習を中心として、過去の模擬試験の問題演習や解説を行うことができた。 ・模擬試験受験者の理科偏差値を十分に伸ばすことができなかった。 	
		校外での研修に積極的に参加し、自己研鑽に努める。教科で年間合計4回以上の研修に参加する。BYOD及び3観点評価に関する研修を教科で年3回実施する。	A					A
		公開授業や研究授業に、教科で12回以上参加し、教科指導力の向上を目指す。	A					A
			A					A

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題		
5 保健体育科	質の高い授業を展開する	安全面に留意し、挨拶、集団行動、身だしなみ等、けじめのある授業を実施し、授業規律の確立を図る。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度授業時間中にものがなくなることもあり、今後このようなことがないように授業規律をしっかりと見直していきたい。 ・遅刻に対する指導が十分にできなかった。 ・実技以外の科目では1年生だけでなく、2・3年生においてもICTを積極的に活用できた。 	
		時間を大切にすることを意識を持たせ、授業遅刻を年間でのべ10人までにする。	B			B
		ICTの積極的な活用や、有意義な班活動の実施、ノートや課題の提出等、質の高い授業の展開を目指す。	A			A
	生涯を通じて運動ができる資質や能力を育てる	運動量の確保に努め、体力及び運動技能を向上させる。	B			B
		班活動を通して、自主、協力、責任等の社会性を育てる。	B			B
		運動への興味・関心・意欲を高め、生徒自ら積極的に活動させる。	A			A
	健康・安全への関心を高め、日常生活の中で実践できる力を育む	自ら課題を見つけ、探求する能力及び行動力を育てる。	B			B
健康の保持進進への知識や理解を深め基本的な生活習慣を身に付けさせる。		B	B			

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
6 英語科	新学習指導要領に対応した授業実践と評価の工夫	4技能5領域を統合した指導法や授業展開について、研究や実践を行うとともに、教材と指導案を共有する。	A	◆教科担当者間や学年間で教材や指導法を共有するとともに、より効果的なものになるように改善を図ることができた。特に1年生では早期から年間を通じたアウトラインを描き、計画に基づいて授業を進めながら、授業方法や評価について頻繁に検討を重ねることで、協力して指導に当たることができた。 ◆授業におけるICT活用を推進するため、英語科内で情報共有や実践交流を行うとともに、学外の研修にも積極的に参加できた。 ◆CAN-DOリストを年度当初に生徒に示すとともに、単元ごとの目標にリストの項目を盛り込むことで、リストの活用を図ることができた。指導と評価の一体化の観点から、さらなる活用方法を模索したい。 ◆3年生中心に多くの生徒が英検を受験した。英語科をあげて2次試験指導を行い高い合格率を維持している。1・2年生の受験者が少ないことが課題で、増加に向けた工夫していきたい。 ◆AETと連携して、パフォーマンス課題にも体系的に取り組むことができた。
		綾部高校独自のCAN-DOリストを教員と生徒が共有し、目標設定や到達度の把握、そして評価の観点として活用する。	B	
		英語科全体で年間1人1回以上は学外の研修やオンライン研修に参加し、観点別評価の工夫や効果的な指導方法を学び、情報を共有する。	A	
	基礎学力の定着と応用力の伸長	小テストや週末課題を適切に実施し、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。	A	
		応用力伸長のために、学習アプリを有効に活用するとともに、進学特別講習や習熟度講座を生徒の実態に応じて適切に設定する。	A	
		GTECや実用英語技能検定試験の受験機会を設け、受験を推奨するとともに、3年生1学期までに20%以上の生徒がCEFRのA2(高校中級)レベルの英語力を、5%以上の生徒がB1(高校上級)レベルの英語力を身につけられるように指導する。	B	
英語を用いた情報処理能力と発信力の強化	言語活動を中心に据えた授業を展開するとともに、各学期に1回はパフォーマンス課題に体系的に取り組む、英語を用いて自己表現する力を伸ばす。	A		
	4技能5領域の効果的な伸長を図るために、ICT機器や教材を有効に活用するとともに、成果の総括と授業改善を行う。	A		

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
7 芸術科	基礎技術を充実させ自ら表現しようとする意欲を育てる	生徒一人ひとりの能力の掌握に努め、基礎的な内容から高度な内容まで表現できる幅を広げさせる。	B	◆基礎的な内容の習得だけでなく、各自の能力を伸ばす課題を工夫した。 ◆観点別評価に伴い、適切な評価がなされるように指導と評価の分析に注力したい。 ◆鑑賞用のワークシートやKey noteを活用し、多様な表現を交流できる機会をつくることができた。 ◆音楽・美術・書道で、iPadを活用した授業研究を進められた。 ◆全ての学年でICTを活用した教材を積極的に導入し、授業改善を行った。
		表現活動を適切に評価できるように指導と評価の分析に注力し、生徒の意欲向上へつなげる。	B	
		授業時間を有効に活用し、授業規律を大切にす。	B	
	感性を磨き、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる	鑑賞活動を通して生徒の興味・関心を高め、幅広い価値観を養う。	B	
		発表の機会を多く持つことで表現する喜びを知り、感性を伸ばし生涯にわたって芸術を愛好する心情を養う。	A	
	指導力を向上する	双方向性のあるICT活用術について研究する。	B	
生徒の興味・関心に鑑み、効果的な教材を選定し表現する楽しさを体験させる。		A		

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
8 家庭科	家庭生活の改善・充実・向上を目指す	家庭生活の中から課題を見つけ出し、学んだことを実生活で生かせるような授業を展開する。	B	・新学習指導要領に応じた金融教育の授業の充実を図ることができた。 ・授業内だけでなく、家庭で実践する取組を行うことができた。 ・地域で活躍されている方と連携し、専門的かつ技術の習得につながる授業を行った。 ・それぞれの学習段階における評価を明確にし、生徒の意欲を高める工夫を検討していきたい。 ・研修会への参加や授業参観を積極的に行い授業に生かした。よりよい授業のために教材や社会人講師の選定等をしていきたい。 ・教科内での情報共有が十分にできなかった。
		繰り返しの指導を行い、知識・技能の定着を図る。	B	
		卒業後の生活や生涯を見据えた学習を取り入れる。	A	
	自ら学ぶ意欲を育てる	地域に密着した学習内容を検討し、身近な社会問題や地元の魅力に気づける授業を展開する。	A	
		社会問題となっていることや生活課題を取り上げ、視野が広がるような授業を展開する。	B	
		コロナ渦に対応した実習の充実を図る。	B	
	指導力の向上	研修等に積極的に参加し、家庭科におけるICTの活用を推進する。	B	
		新学習指導要領に対応した評価と授業内容について家庭科内で情報を共有し、よりよい授業を検討していく。	C	

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価		成果と課題
9 情報科	基本的なICT機器の使用法	キーボードによる入力を練習に力を入れる。文字数にして年度当初から10%の向上を目指す。	A	A	進学、就職後に、困らない程度のキーボード入力スキルは身につけさせることができた。
		文書作成、表計算、プレゼンのソフトウェアの使い方を指導する。	A		
	情報モラル意識の育成	個人情報の取り扱い方を通して、自己の個人情報について指導する。	B	B	個人情報という言葉だけでなく、その具体的な内容について理解させることができた。
		知的財産権（著作権・特許権など）の歴史を通して、その重要性を理解させる。	B		
		インターネットの安全な使い方、被害に遭わない使い方について指導する。	B		
	情報技術の活用	基本的なデジタル情報の仕組みについて理解させる。	B	B	どうしても理論的・抽象的な内容が多くなるため、数学等の知識が不足している生徒にとっては難しい。共通テスト対策は十分にはできなかったため、次年度の課題である。
		インターネットの仕組みについて理解させる。	B		
2025年度から始まる大学共通テストに向けた対策を考えていく。		C			

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 綾部高校の生徒は、明るく楽しそうに高校生活を過ごしている。高校生らしい高校生活を送っている。やりたいことができる学校である。 コロナの中、集団の取り組み、動きが“静”になっている。もっと生徒が活躍できる場を見つけ、取り組んでほしい。 綾部高校の生徒は挨拶をしっかりと行うことができる。地域の人達から感謝される生徒になってもらいたい。 産学連携の酒造りも二年目を迎え、高校生が考えた商品を試作中である。今後も共に地域に貢献できる場を設け取り組んでもらいたい。 BYODの講習会を実施するなど、タブレットを使用した授業を展開している。ネットによるトラブルが生じないように教員、生徒両方のITリテラシーの向上に努めてもらいたい。 すばらしい広報活動ができています。今後も継続してほしい。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> タイムリーなHP更新やメール発信を心掛け、保護者への広報を充実させる。 コロナ感染症の制限も少しずつ解消され、通常に近い学校の行事が行えたが、更に来年度は通常に戻し生徒の思い出に残る行事を実施していきたい。 生徒を取り巻く危険性から守るため、警察署や外部機関と連携を密にし、充実した講習会を展開していく。 生徒会活動を活発に展開させるなど、生徒が元気に活躍できる場を作る。 個々に応じた丁寧な進路指導を行い、希望する進路の実現を目指す。
---------------	--